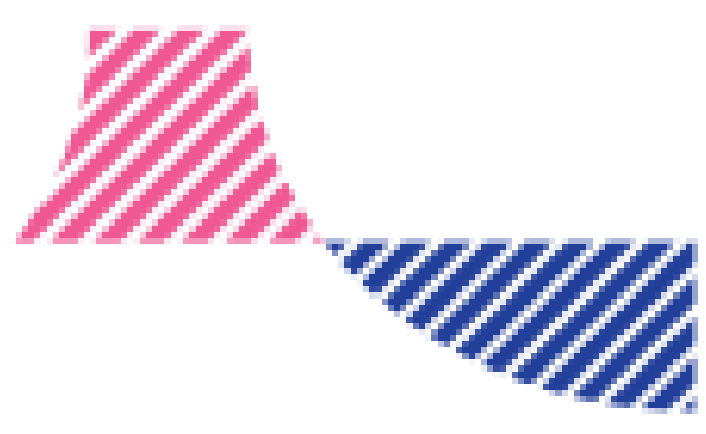




駿河湾海洋DXプロジェクト

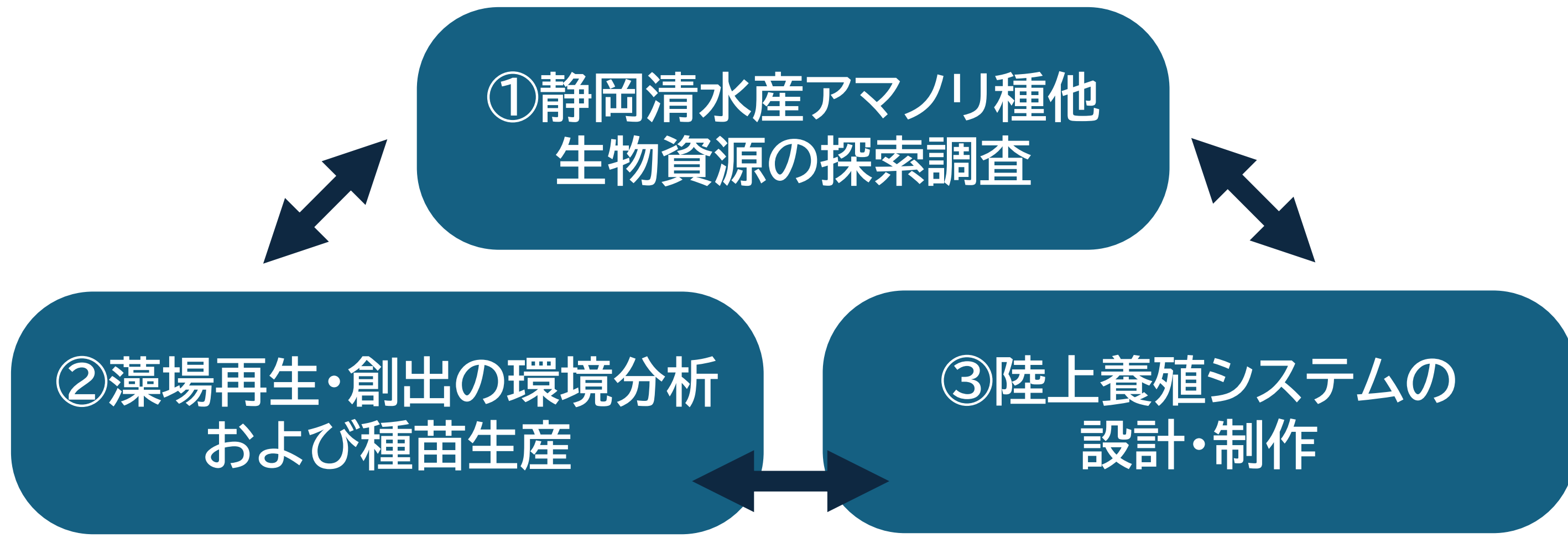
ブルーカーボン分科会

静岡市清水区で養殖が可能な「紅藻アマノリ」種の選定およびその陸上養殖種苗システムの構築

プロジェクトリーダー: 齋藤 寛(東海大学 海洋学部長 教授)
テーマリーダー: 久保田 徹(株式会社鈴与総合研究所 主任研究員・博士)

【概要(背景と目的)】

研究概略



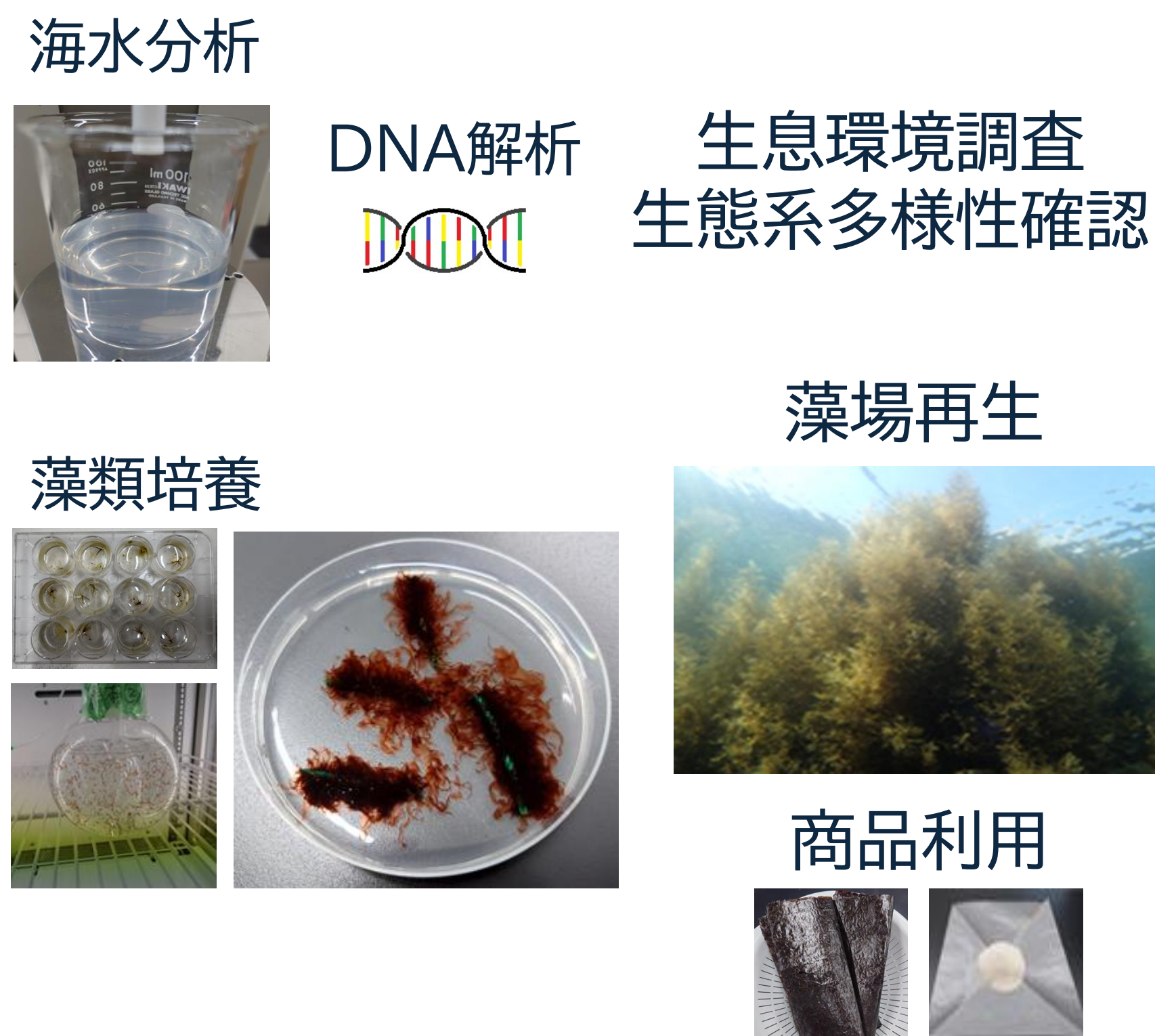
本テーマでは、清水区折戸湾において紅藻アマノリなどの藻場形成を進めるための事業性のある持続可能な藻場再生プログラムを構築し、藻場の創出およびその沿岸域の生物生産性(漁業資源の確保)を図るとともに、消失した「三保海苔」を復活させ新たな地域特産品の創出を図り、静岡県内の水産業の活性化と地域ブランドの向上を目的としています。

【技術的なアプローチ方法】

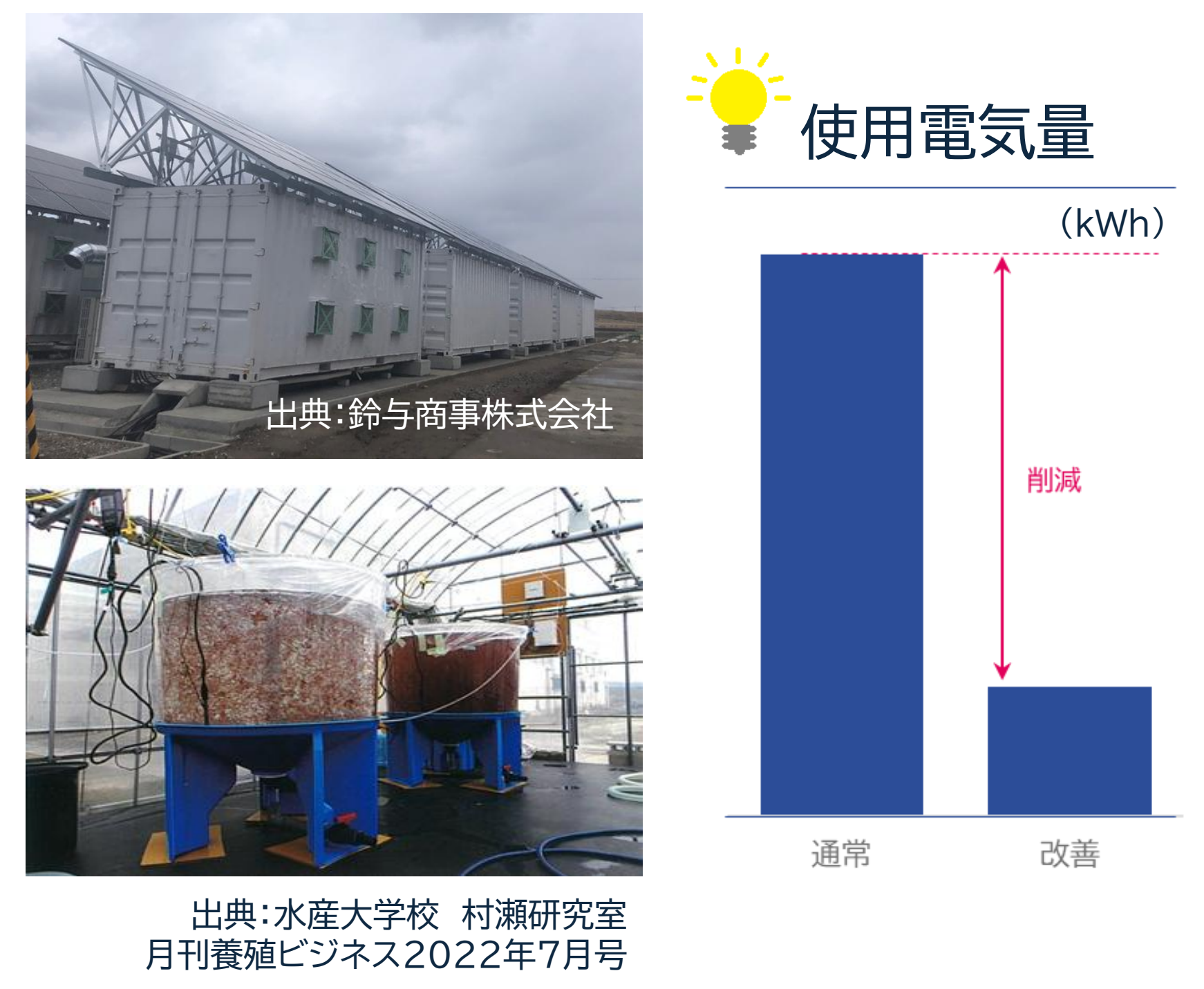
①静岡清水産アマノリ種他 生物資源の探索調査



②藻場再生・創出の環境分析 および種苗生産



③陸上養殖システムの 設計・制作



静岡県内にて生息が確認されている海藻種を調査によって把握し、その在来種を育て、再生し、静岡県海域の生物多様性を維持する。

折戸湾特有の特徴を分析、そこから湾内環境による藻類生育の違いを解析、また藻類の有用成分などを調査する。

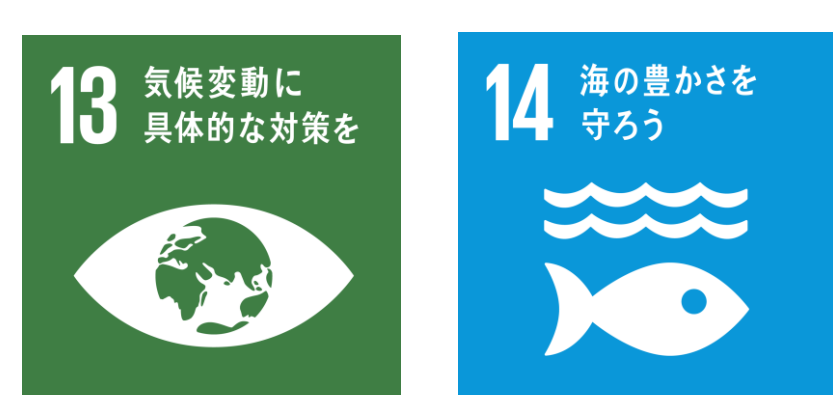
様々なエネルギー供給システムを組み入れた、種苗生産管理システムを設計し検証する。またCO₂吸収固定量の算出も検討する。

【期待される効果】

海藻養殖の事業化

海洋環境改善・CO₂吸収固定

海洋産業生産額の伸長



持続可能な
社会の実現

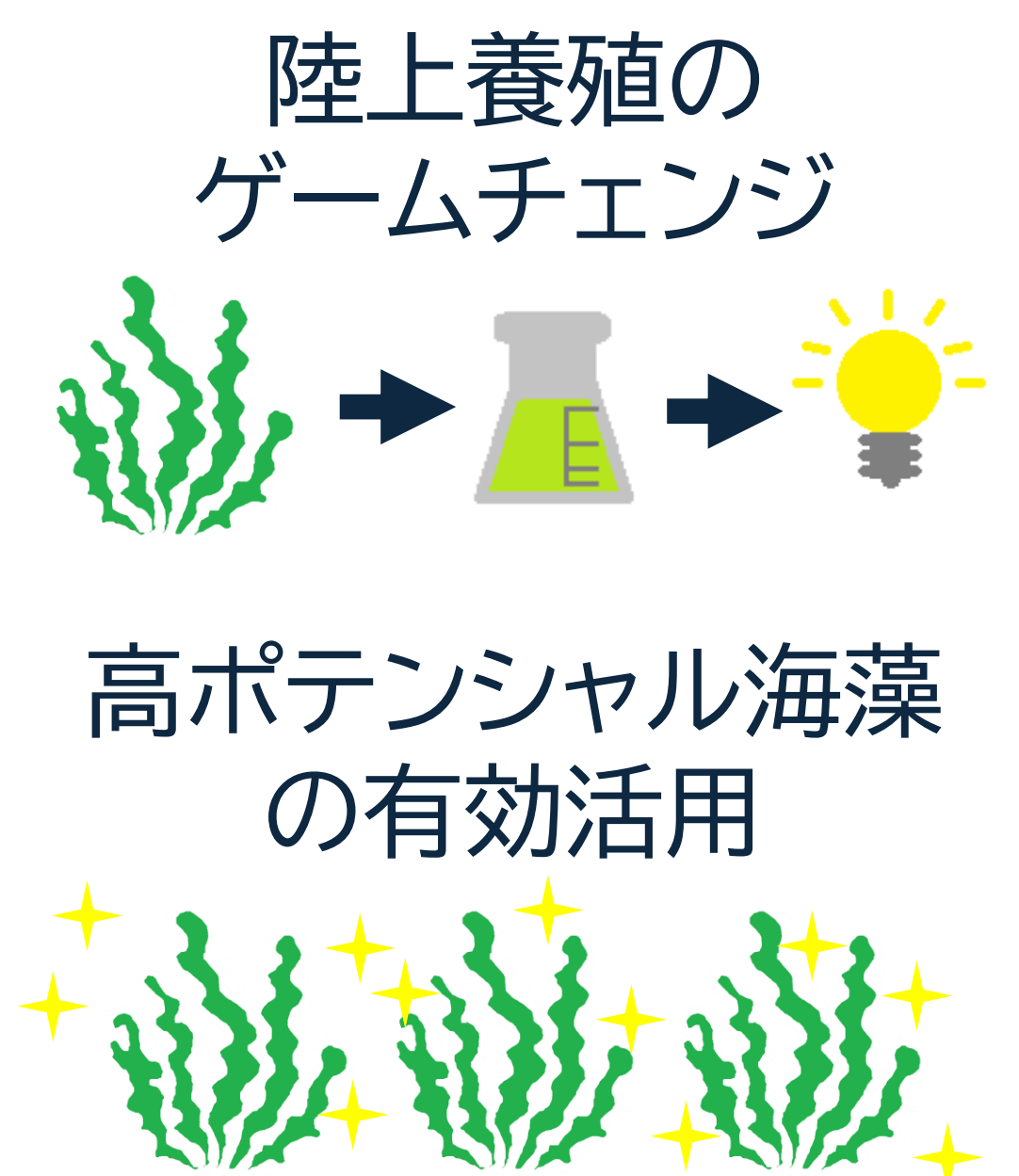
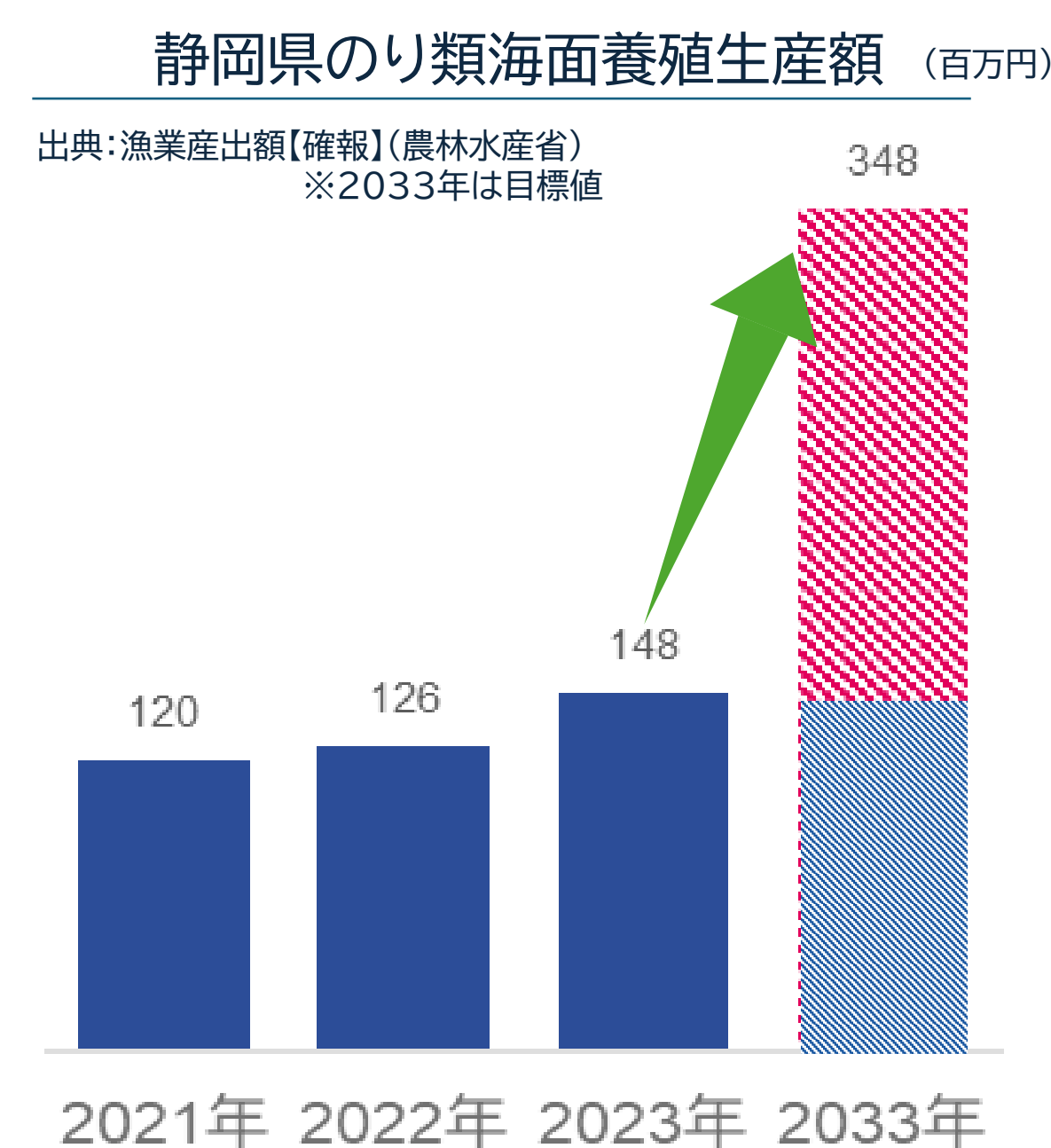
地域経済の
活性化

海藻養殖の事業化により、創出された藻場によるCO₂吸収固定と海洋環境改善、および海洋関連産業の生産額増加による地域経済効果が期待される。

【今後の展望】

2024年度-2028年度
調査・技術開発期間

2029年度-2033年度
事業化検証期間 AND MORE



消失してしまった「三保海苔」ブランドを復活させ、海洋産業生産額を2億円向上させるとともに、陸上養殖のゲームチェンジやポテンシャルの高い海藻の利用促進を図っていく。